

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
 担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道159号 <small>なな お</small> 七尾バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：石川県 <small>なな お</small> 七尾市 <small>かわらまち</small> 川原町 至：石川県 <small>なな お</small> 七尾市 <small>しもまち</small> 下町	延長	4.3km		
事業概要	国道159号七尾バイパスは、「交通混雑の解消」「交通事故の低減」「能越自動車道七尾氷見道路へのアクセス向上」を主な目的とした延長4.3kmの事業である。				
H11年度都市計画決定	H12年度事業化	H12年度用地着手	H21年度工事着手		
全体事業費	約240億円	事業進捗率	27%	供用済延長	0.0km
計画交通量	18,600～23,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.2 (残事業) 1.7	総費用： (残事業)/(事業全体) 163 / 237億円 (事業費：132/206億円) (維持管理費：30/30億円)	総便益： (残事業)/(事業全体) 281 / 281億円 (走行時間短縮便益：218/218億円) (走行経費減少便益：41/41億円) (交通事故減少便益：22/22億円)	基準年： 平成24年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C= 1.0～1.3(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C= 1.4～1.9(交通量±10%) (事業全体) 事業費：B/C= 1.1～1.3(事業費±10%) (残事業) 事業費：B/C= 1.6～1.9(事業費±10%) (事業全体) 事業期間：B/C= 1.2～1.2(事業期間±20%) (残事業) 事業期間：B/C= 1.7～1.8(事業期間±20%)				
事業の効果等	定性的な効果 ①大規模道路事業との連携 ・能越自動車道の七尾IC（仮称）と七尾市街地や金沢市方面との円滑な交通の確保が図られる。 ②日常生活圏中心都市へのアクセス向上 ・日常生活圏都市間の所要時間が短縮され利便性が向上することが期待される。 ③重要港湾七尾港からの物流円滑化 ・金沢方面から七尾港へのアクセス性が向上し、物流円滑化が期待される。 ④主要な観光地へのアクセス向上 ・主要観光施設へのアクセス性や、イベント時の集客向上による地域活性化が期待される。 ⑤第三次救急医療施設へのアクセス向上 ・能登地域唯一の第三次救急医療施設への30分圏域の拡大が見込まれる。 ⑥緊急輸送道路の強化 ・災害に強い道路ネットワークが形成され、能越自動車道と一体となった緊急輸送道路としての機能強化が期待される。 ⑦地域連携プロジェクト（石川県長期構想）の支援 ・石川県の道路整備における長期構想を支援する。				
関係する地方公共団体等の意見	地域から頂いた主な意見等 ・七尾市など3市3町の首長で構成される国道159号建設促進期成同盟会等より整備の要望を受けている。 県知事の意見 ・事業継続で異論ありません。 ・今後の事業執行に際しては、早期完成を図るため、更なるコスト縮減に努めていただきたい。				
事業評価監視委員会の意見	・審議の結果、再評価及び対応方針（原案）の「事業継続」は妥当である。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・平成23年度までに、七尾バイパスの起点側に接続する国道249号藤橋バイパス（石川県事業）Ⅱ期区間が暫定2車線で供用。				

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：事業進捗率27%、用地進捗率37%
残事業の内容：全線の完成4車線工事（改良工、舗装工等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成26年度に七尾市古府町～同市下町間の暫定2車線供用を目指す。残る事業については、交通状況を勘案し、関係機関と調整を図りながら行う。

施設の構造や工法の変更等

施工にあたっては、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減を図っていく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。